○○市長選挙 情勢調査 結果報告（第4回）

○○市長選挙（架空）｜投票日の5日前時点｜電話・Web統合版

調査の概要

	第1回 電話	第2回 電話	第3回 電話	第4回 電話	Web
実施時期	告示1か月前	告示直前	告示後3日目	投票5日前	投票5日前
方法	自動音声電話	自動音声電話	自動音声電話	自動音声電話（かけ直し）	インターネット
対象	市内の固定電話	市内の固定電話	市内の固定電話（新しい番号）	第2回の回答者	市内在住 18〜69歳
有効回答	301	302	297	286	300
標本誤差	±5.6	±5.6	±5.7	±5.8	±5.7

※第1回・第3回の数値は、それぞれの回のレポートから引用しています。標本誤差は、支持率50%のときの95%信頼区間の幅です。

結果のポイント

- **A候補が優勢。補正しても差は誤差を上回る。**
  電話（第4回）はA候補44%、B候補25%。若い層をWebで補い、年代と投票率で補正した本推計でも39対26で、差13ポイントは誤差（±5程度）を上回る。
- **未定は半分から3割へ。動いた人の多くはA候補へ。**
  同じ人へのかけ直しで、第2回に未定だった138人のうち40人がA候補、12人がB候補を選んだ。
- **最大のかたまり「首長をどちらかと言えば支持」で逆転。**
  告示前はA22対B25。今回はA36対B28。首長の是非を争点にしなかった方針は、裏目に出ていない。
- **「必ず行く」人ほど差が大きい。**
  「必ず行く」と答えた人ではA47対B25。
- **唯一負けているのは40代以下。**
  Web調査の18〜49歳ではB候補がA候補の約2倍。電話だけでは見えない弱点。
- **負ける筋書きは、自分の支持者が休むことを含む。**
  相手に有利な前提を3つ重ねても、A候補はわずかに残る。逆転するのは、A候補の支持者の2割が棄権したときだけ。

39%
A候補 支持（本推計）

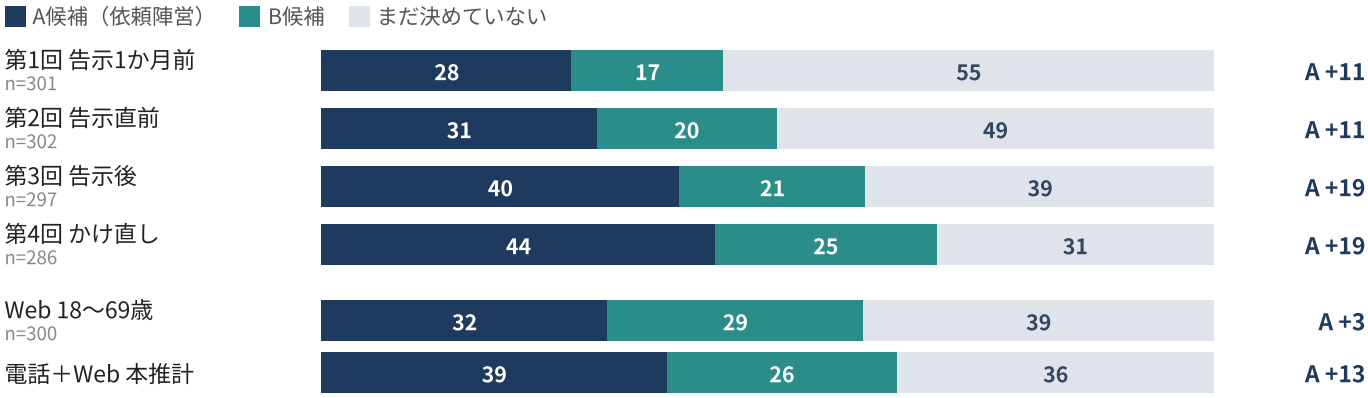
+13
B候補との差（本推計）

36%
まだ決めていない（本推計）

68%
未定のうちこれだけB候補に入ると逆転

1. 候補者支持の推移

投票先（電話調査の推移と、Web・本推計）



※本推計は、電話（第4回）とWebを合わせ、市の18歳以上人口の年代構成と推定投票率で補正した値（5ページ）。差の誤差はおおむね±5ポイント。

差は第1回の11ポイントから、第4回で19ポイントへ。未定が減った分の大半がA候補に回っている。

投票先を決めた人だけで見ると



決めた人の中では、電話でA候補が約64%。Webでは53%で、差はぐっと縮まる。

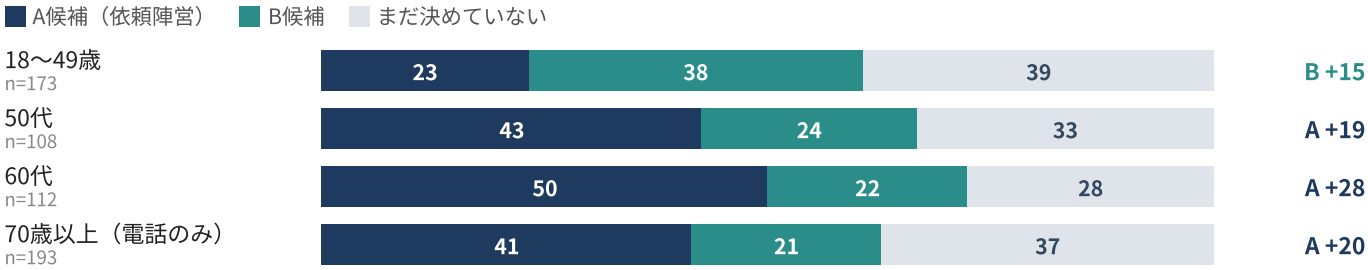
「必ず行く」と答えた人の投票先



投票意欲の高い人ほどA候補の比率が高い。リードを守る鍵は、この層を確実に投票所へ運ぶこと。

2. 年代別の支持

年代別の投票先（電話第4回＋Web）



※18〜69歳は電話とWebを合算、70歳以上は電話のみ。

50代以上ではA候補がリード。18〜49歳だけはB候補が上回っている。

調査ごとの年代別（A／B／未定、単位%）

年代	第2回 電話	第4回 電話	n	Web	n
18〜49歳	29/33/38	43/39/17※	23	20/37/43	150
50代	45/24/31	46/32/21※	28	41/21/38	80
60代	40/26/33	55/29/17	42	47/19/34	70
70歳以上	27/17/56	41/21/37	193	—	—

※回答数30未満の層（※）は参考値。固定電話の回答者は70歳以上が約7割、Webは70歳以上を含みません。

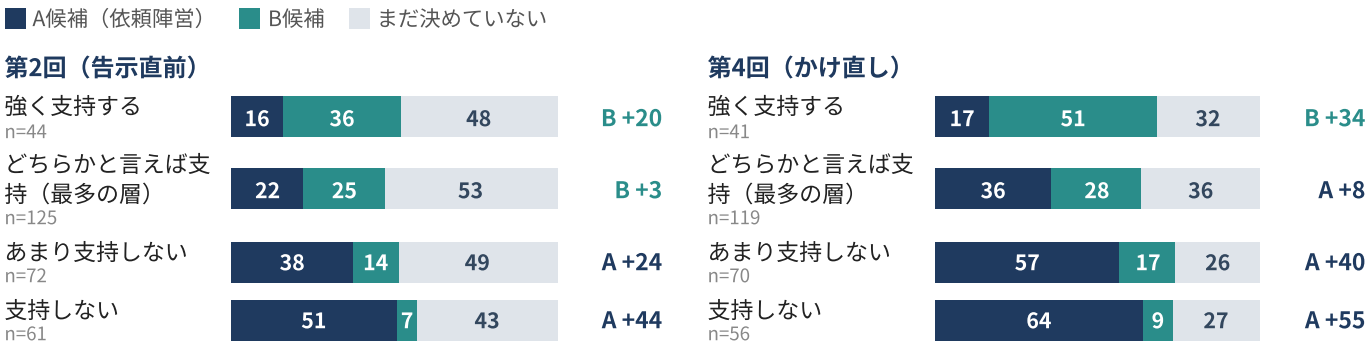
若い層の実態は、電話の少ないサンプルではなくWebで見る。Webの18〜49歳はA20対B37で、B候補が約2倍。

読み方

固定電話に出るのは60代以上が中心です。電話調査だけを見ると、若い層の弱さは「回答数が少ない参考値」として埋もれてしまいます。年代別の数字は、電話とWebを組み合わせて初めて読めるようになります。ただし、若い層の投票率は低いため、この層の差がそのまま全体の差になるわけではありません（5ページ）。

3. 首長への評価と投票先

現職首長への評価 × 投票先（電話、告示直前 → 第4回）



首長を「どちらかと言えば支持」する最多の層で、告示前のB25対A22が、A36対B28に逆転した。

首長への評価の分布（単位%）

評価	第2回 電話	第4回 電話	Web
強く支持する	15	14	13
どちらかと言えば支持	41	42	44
あまり支持しない	24	24	28
支持しない	20	20	15

「支持する」側（強く＋どちらかと言えば）は電話・Webとも5割台半ば。有権者は候補者よりも、首長を軸に投票先を決めている。

投票に行くか（第4回 電話、単位%）

	必ず行く	たぶん行く	わからない	行かない	n
A候補 支持	67	17	10	6	126
B候補 支持	63	23	11	3	71
まだ決めていない	58	21	15	6	89

A候補の支持者は「必ず行く」が7割近い。未定の人も6割近くが「必ず行く」と答えており、投票所に来る票として取りに行く必要がある。

4. 年代と投票率で補正した推計

補正推計（電話第4回＋Web、単位%）

推計の方法	A候補	B候補	未定	差	有効n
電話のみ（補正なし）	44	25	31	+19	286
Webのみ（補正なし）	32	29	39	+3	300
電話＋Web（補正なし）	38	27	35	+11	586
人口構成で補正	36	28	36	+8	564
投票者構成で補正（本推計）	**39**	**26**	**36**	**+13**	**560**
参考：ウェイト上限なし	39	26	36	+13	—

※本推計の誤差は、支持率で±4.1ポイント、差で±5ポイント程度。有効nは、ウェイトのばらつきを考慮した実質的な回答数。

どの方法で補正しても、A候補が8〜13ポイントのリード。本推計の差13ポイントは誤差を上回る。

補正のウェイト（単位%）

年代	回答の構成	18歳以上人口	人口×推定投票率	投票者構成	ウェイト
18〜49歳	30	38	38×30%	25	0.84
50代	18	15	15×45%	15	0.79
60代	19	15	15×55%	18	0.93
70歳以上	33	32	32×62%	43	1.30

※人口構成は市の住民基本台帳（架空の値）。推定投票率は、全国の年代別投票率の傾向を、前回の市長選の投票率に合わせて置いたもの。ウェイトの上限は2倍。

補正後の見方

電話だけを見ると差は約20ポイントですが、これは70歳以上と、A候補が強い50〜60代の声が多いためです。若い層をWebで補うと差は10ポイント余りに縮み（人口構成で補正すると8ポイント）、投票に来る人の構成に合わせると再び少し広がります。若い層は人数が多くても投票率が低いため、投票者の中での比重は小さくなるからです。

この推計は「いま投票があったら」の姿であり、投票日の結果の予測値ではありません。未定の3割余りがどう動くかで、結果は大きく変わり得ます（7ページ）。

5. 電話調査の詳細（かけ直し・属性）

同じ人の投票先はどう動いたか（第2回 → 第4回、人数）

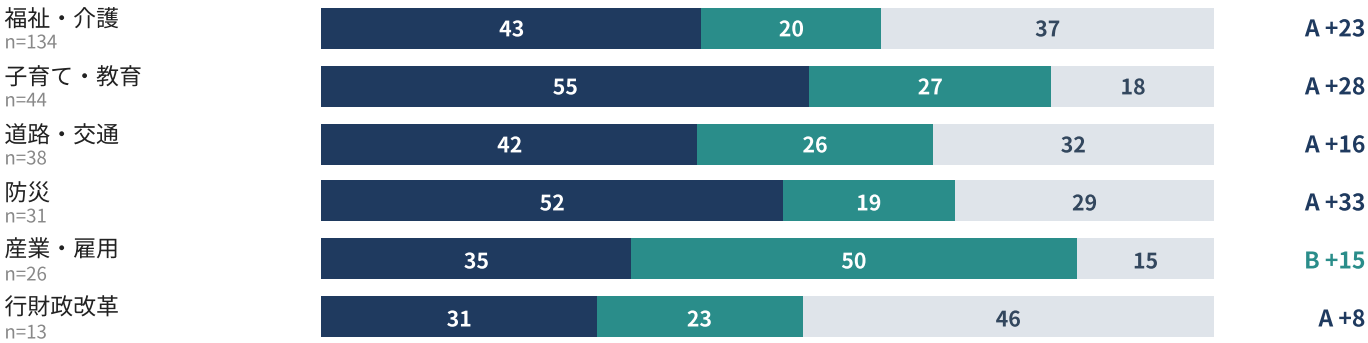
	第4回 A候補	第4回 B候補	第4回 未定	計
第2回 A候補	86	2	0	88
第2回 B候補	0	57	3	60
第2回 未定	40	12	86	138

第2回に未定だった138人のうち、40人がA候補、12人がB候補へ。86人はまだ決めていない。支持を決めた人が相手に移った例はほとんどない。

性別

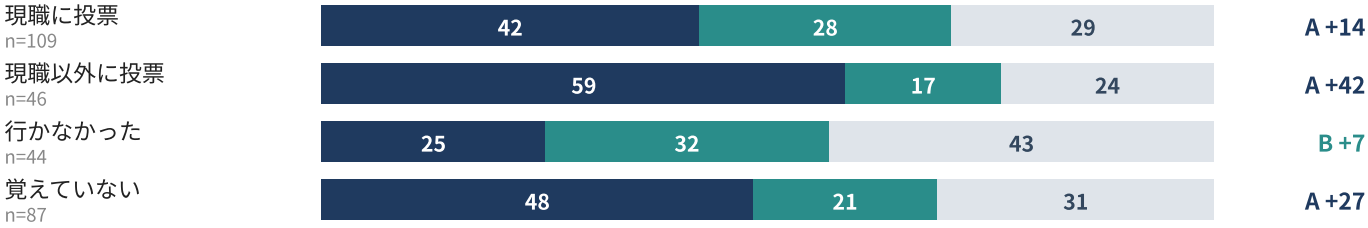


重視する政策別



※回答数30未満の層は参考値。

前回の市長選での投票



前回「現職に投票」した人でも、A候補がリードしている。「覚えていない」人に未定が多く、普段は選挙との距離がある層が残っている。

6. 負けるとしたら、どう負けるか

本推計をもとに、未定の人を「首長への評価が同じ層で、すでに決めた人と同じ比率」で両候補に割り振ったものを基準とします。そこから、B候補に有利な前提を一つずつ動かしました。

B候補に有利な前提を動かした試算（単位%）

前提	A候補	B候補	A候補との差
基準（未定は、首長評価が同じ層の決めた人と同じ比率で割り振る）	**60**	**40**	**まだ +20**
① 若い層（18〜49歳）の投票率が30%→45%に上がったら	58	42	まだ +16
② 首長を支持する人が、実際は6割いたら	59	41	まだ +18
③ 中間層（どちらかと言えば支持）の未定の8割がB候補に流れたら	54	46	まだ +8
①＋②＋③ 相手に有利なことがすべて起きたら	51	49	+2（誤差内）
④ A候補の支持者の2割が投票に行かなかったら	57	43	まだ +14
③＋④ 中間層が流れ、支持者が休んだら	51	49	+2（誤差内）
①〜④ すべてが重なったら	47	53	**B候補が逆転（6）**
参考：50〜60代も、Web調査の傾向が実態だったら	61	39	まだ +22

※予測値ではなく、前提を置いた試算です。棄権した支持者の分は、得票から除いて比率を出しています。

逆転の分岐点

68%
未定全体のうちB候補に入ると逆転する割合

63%
A候補の支持者の1割が棄権した場合

> **未定の68%がB候補に回らない限り、逆転はない。ただし支持者が1割休むだけで、そのハードルは63%まで下がる。**

3つの負ける筋書き

1. **A｜信任投票になる。**選挙が「首長を信任するかどうか」の構図で語られ、最多の層の未定がB候補に流れる。これだけでは逆転しないが、差は一桁に縮む。
2. **B｜相手に有利なことが重なる。**若い層の投票率上昇、首長支持層の厚み、中間層の流出が同時に起きる。それでも差はわずかに残る。単独で効く要因はない。
3. **C｜自分の支持者が休む。**「勝っているらしい」という空気で支持者の2割が棄権し、そこに中間層の流出が重なると、ほぼ並ぶ。すべてが重なれば逆転する。

> **負ける筋書きはすべて、相手の強さではなく、A候補の支持者の足が止まることを含んでいる。**

7. 残りの日程ですべきこと

最大のかたまり：首長を「どちらかと言えば支持」する未定（電話＋Web n=96）

年代	%
18〜49歳	32
50代	16
60代	17
70歳以上	35

重視する政策	%
福祉・介護	38
子育て・教育	18
道路・交通	14
行財政改革	10

投票に行くか	%
必ず行く	46
たぶん行く	33
わからない	17
行かない	4

※電話とWebを合算した人数構成。補正前の値です。

> **70歳以上が35%、18〜49歳が32%。重視するのは福祉・介護が最多（38%）。首長への好感を持ったまま決めていない人たちで、取れる票であり、取りこぼすと負ける票。**

回避策

1. **支持層を確実に投票所へ。**A候補の支持者のうち「必ず行く」と答えていない人が約3割。期日前投票の呼びかけを最優先にし、陣営内には「勝っている」と言わない。
   根拠：支持者の2割が棄権すると差は14ポイントまで縮む（7ページ）。
2. **争点を首長の是非にしない。**逆転した中間層を、B候補の側へ押し戻さない。首長への批判と受け取られる発言は控える。
   根拠：中間層の未定の8割が流れると差は8ポイントへ。
3. **福祉・介護を軸に訴える。**最大のかたまりの最多の関心。具体的な施策と、身近な事例で語る。
   根拠：中間層の未定の38%が福祉・介護を最重視。
4. **中間層の未定に、届け方を分けて接触する。**70歳以上が3分の1、18〜49歳も3割。高齢層には地域の集まりや電話での声かけ、若い層にはWebでの政策発信と、届け方を分ける。
   根拠：中間層の未定の年代構成（上の表）。
5. **若い層は追いすぎない。**Web・SNSでの発信は続けるが、人と時間は割きすぎない。
   根拠：投票率を30%→45%にしても差は16ポイント残る。
6. **最終盤の追跡調査で3つを確認する。**①中間層の投票先、②A候補支持者の「必ず行く」の比率、③未定の割合。
   根拠：この3つが、負ける筋書きA〜Cの入り口。

8. 調査結果を読むときの留意点

1. **電話とWebでは、答えている人が違います。**
   電話は市内の固定電話の番号に自動音声でかけ、最後まで答えた人の回答です。Webは市内に住む18〜69歳のモニターの回答です。同じ「市民」でも、選ばれ方が異なります。

2. **年代の偏りがあります。**
   電話の回答者は70歳以上が約7割、Webは70歳以上を含みません。年代別の数字は、両方を合わせて読んでください。

3. **第4回の電話は「かけ直し」です。**
   第2回の回答者に再度かけているため、同じ人の意見の変化はわかりますが、新しく関心を持った人は含まれません。第3回（新しい番号）と同じ方向の動きが出ていることを確認しています。

4. **推定投票率は仮定です。**
   年代別の投票率は、全国の傾向を前回の市長選の投票率に合わせて置いたものです。実際の投票率が変われば、推計も変わります。

5. **補正には限界があります。**
   年代で補正しても、同じ年代の中で「電話に出る人」と「出ない人」の違いは残ります。

6. **試算は予測ではありません。**
   6ページの試算は、前提を動かすと結果がどう変わるかを示すものです。どの筋書きが起きやすいかを示すものではありません。

7. **標本誤差。**
   電話（n=286）で±5.8ポイント、Web（n=300）で±5.7ポイント、本推計で±4.1ポイント。2候補の差の誤差は、その1.3倍程度です。

この見本について

このレポートは、センキョスコープが陣営にお届けしている情勢調査レポートの体裁を、架空の選挙・架空のデータで再現した見本です。○○市、A候補、B候補、すべての数値は実在しません。実際のレポートは、選挙の種類や調査の回数に合わせて構成を変えています。

株式会社まちのもり｜センキョスコープ　https://senkyoscope.jp/